



# 第 1331 回例会報告

平成25年9月12日(木) 晴

## 会長挨拶

会長 平山隆勇

## 前頭連合野

今日は脳の働きの一つについてお話しをします。

物を感じる、何かを記憶する、喜怒哀楽を表現する等のすべての行動を「脳」が司っていることは御存じだと思います。しかし、これらの機能は人間以外の哺乳類(犬や猫などの動物)でも持っています。

人間の脳と他の動物の脳はどこが違うのでしょうか。脳の形を比較すると、違いは脳の大きさにあります。哺乳類の脳の皮質(表面)には、運動に関する領域(運動野)、感覚に関する領域(感覚野)、ものを見るための領域(視覚野)、音を聴くための領域(聴覚野)そしてどんな働きをしているかが分かりにくい、連合野と呼ばれる部分があります。この連合野という部分の面積が動物によっては大きく違うのです。ネズミでは申し訳程度にしか無い連合野はチンパンジーではかなり広い面積を占めるようになり、ヒトの脳では大部分を占めるほど発達しています。チンパンジーの連合野がかなり発達してはいますが、その大きさは生まれたばかりの人間の赤ちゃんの脳にも及びません。連合野とは一体どんな働きをしているのでしょうか。他の部分と違い、連合野の働きは具体的でなく、脳のあちこちの部分と連合して働く領域といわれています。

連合野の働きは入ってきた生の情報を理解し、判断して、それによって行動に移す働き、即ち行動のプログラムを作るという次元の高い働きをもっていると考えられています。

人間の連合野はその部位により、前頭連合野、側頭連合野、頭頂連合野の三つがありますが、中でも脳の前の方にある前頭連合野は最も発達し

ており、大脳皮質全体の約 30%を占めています。一方、サルは 12%、ネコは 2~3%しかなく、ネズミに至ってはほとんどありません。従って前頭連合野は「ヒトを人間たらしめる脳」と考えられています。それを証明する事実があります。

1848年、アメリカの工事現場監督だった、フィニアス・ゲージという人が、爆発事故により前頭連合野の大部分を失ってしまいました。爆発で飛んできた鉄棒がゲージさんの右の頬から顔を破り、頭蓋骨を突き破ったのです。百メートルほど離れた地面に落ちた鉄棒は血にまみれ、脳の残片が付着していたとのことですが、ゲージさんの意識ははっきりしていたといえます。

彼は一命を取り留め、話すことも歩くことも全く不自由無かったのですが、人々を驚かせたのは、人格がすっかり変わってしまったことでした。人望の厚かった彼の性格は一変して野蛮になり、人前で不謹慎、卑猥なことをいつも言うようになってしまいました。また、将来への計画性をもつことができなくなり、気まぐれにもなりました。

以上の悲劇から、この前頭連合野はヒトの人格

### ■出席報告

会員数	36名
出席対象	33名
出席者数	27名
出席率	81.8%
前回修正	93.9%

### ■ニコニコBOX

25名	27,000円
累計	257,000円
目標額	130万円
達成率	19.8%

### ■今週のこトバ

孫娘(中2)が、長野県書道展で特選に選ばれました

林洋三

### ■次回のプログラム

9月26日

外部講師卓話

「社会奉仕とは」  
諏訪圏青年会議所  
山田昌義副理事長

社会奉仕委員会



2013-2014 年度 国際ロータリーテーマ

ロータリーを 実践し みんなに 豊かな人生を

Engage Rotary, Change Lives

ウィークリーの原稿送付先は PR@suwakorc.net です

に大変重要な役割をもつ領域であることが分かりました。また、覚醒剤や麻薬の多くも、前頭連合野の活動に影響を与えて、人格を崩壊させてしまうことが知られています。前頭連合野に障害が起ると、ブレーキの効かない自動車の様に暴走してしまいます。行動に対する抑制が効かないばかりか、計画性、意欲、責任感、先を見通す能力が消えてしまいます。この他、前頭連合野は善悪の判断、創造性、反省、希望、野心等にも深く関係していると言われています。このように前頭連合野は、社会性に関連したいくつかの機能をもっている部位であることが分かってきました。

奉仕や親睦の精神に則って行動するロータリアンは、勿論この前頭連合野が充分発達している人々の集まりではないかと思えます。

### ◇幹事報告◇

#### 【報告事項】

1)小諸ロータリークラブ、堺東ロータリークラブから鍵盤ハーモニカ寄贈の申し出がありました。

#### 【受領文書】

1)岡谷エコーRC 諏訪 RC よりウィークリーが届きました

## 第 1331 回例会

クラブ会報雑誌広報委員会

### ロータリークラブが報道される為に

市民新聞社グループ  
代表取締役 薩摩 建氏

本日は、市民新聞社グループの若き社長薩摩建さんをお招きし、とかくマスコミへの露出下手と言われているロータリークラブがどうしたらマスコミに取り上げてもらいやすくなるか、大変良いアドバイスをいただきました。

時にはユーモアを交え楽しく、また本音を覗かせながら、有意義な時間となりました。

なお、薩摩建氏は、岡谷ロータリークラブの会員でもあります。以下お話の要約を記載します。

市民新聞グループは全7紙により構成されています。

1948年祖父の薩摩光三が岡谷市民新聞を発刊、翌年には「湖北新聞」の名前で下諏訪市民新



聞の発刊を始めました。

発刊の意図は今も昔も変わりなく地域の方に新鮮で、大切な情報をお届けすることが最大の目的です。中央紙が中央の政治・行政を多く報道するように、私達は地域の政治・行政の情報を多く記載します。そして政治・行政以外に地域に暮らす人たちが欲しがっている情報を正確に早く伝えることを使命としています。

ニュースに取り上げられるには公共性が大切なことです。自分の家のカラオケ大会を報道してくれという話の報道は難しいと思います。その点ロータリークラブは公共性に富んだ団体ですが、公共性をアピールするのが上手でない気がします。何か行事をしたときに単に「掃除をしました」「奉仕をしました」という報道でなく、記者と対応する会長や担当者が、「ロータリーのどんな理念に基づき行動しているのか」と言うことを分かりやすく付け加えてお話しすれば、数重なるうちにロータリーそのものを理解していただけるのではないかと思いますし、そのことが大切だと思います。

さて実際の取材ですが、早めに少なくとも一週間前にはお申し込みいただいたほうがよいと思います。年間行事表を渡して「これを見て取材に来てくれ」は難しいと思います。

記者の数も少ないので急な要請にはなかなかお答えできません。しかし、記者が行けないときは写真を撮っておいて、大まかな記事と一緒にご連絡いただければ後日取材の上記載できますのでぜひご活用ください。

また同じ内容の記事を何回も記載してくれというのも難しいことですが、視点を変えた切り口を作ってくれれば報道できます。

いずれにしても、新聞記者の方と仲良くしていただき、情報の交換を密にさせていただくのが大切だと思います。(文責 編集者)